

第4回デジタルデータ活用による商店街等活性化検討会 議事概要

日時 : 令和5年7月13日(木) 13時30分~15時30分

場所 : 高知県立高知城歴史博物館 1階ホール

出席者 : 13委員中11名出席(うち3名オンライン出席)、アドバイザー1名
欠席2名 :

1. 開会

進行 : 経営支援課 宮脇課長補佐

2. 議題

進行 : 古沢委員長

(1) 人流計測デジタル化調査委託業務の中間報告について

→委託業者から調査の中間報告(資料2)について詳細説明。

【主な意見・質問等】

委員(質問)

・資料の16ページ、「人流の創出とはどういうことか」について。

①の「拠点の設定」にしる、②の「拠点間動線の設定」にしる、誰がその設定を行うのか。

→事業者(回答)

・場合によって様々。行政はもちろん、産官学の連携によって設定する場合もあるし、商店街組合が設定する場合もある。

委員(質問)

・高知県においても、音頭を取るのが誰なのかが重要となるか。

→事業者(回答)

・仰る通り。岡崎市や広島市等の事例それぞれで異なる。商店街組合なのか、行政も含めた新しい団体を組織するのか、高知県にあったものを組織することが重要となる。

委員(質問)

・この検討会において、12ページの「発生している課題」に関連し、目指すべき方向性の共有が必要。

・課題のヒアリングにおいてわかることは、データの活用方法はまだまだ手探りということ。例えば手段に重きを置いた場合、商店街としての全体的な成果のサマリーはあるか。

→事業者（回答）

- ・商店街全体としては見付けられなかった。

委員（意見）

- ・各個店において、28 ページのモデルの②、③の重要性は大きなものがあると思う。この具体策の設定、実施する新たな施策の設定も関係者全員の総意で行う必要がある。

委員（質問）

- ・データを活用し、どういった取組を行うのかのコンテンツ選びが重要。誰に向けて、どんなものを発信していくか。その検討も進めなくてはならない。「誰に」という部分について、観光客ならば、国内観光客なのかインバウンドなのかとか。それが決まってから、「どんなものを」という部分が決まってくる。コンテンツを決めるための順序が重要だと思われるが、いかがか。

→事業者（回答）

- ・順序が重要というのはそのとおり。
今回、「経営者の人となり」、「各個店の良さ」や「商店街の魅力」を知ることを目的に、意図的に商店街全体をまわったところ、非常に多くの気づきを得た。しかし、ただ漫然と商店街を通っているだけの方や、はっきりした目的を持って脇目も振らずに動いている方には中々届きにくい。この方たちに対してどういった対策を実施するかによって、各個店の集客数や売上高に反映すると思われる。

委員（意見）

- ・商店街において、様々な取組は一定行ってきた実績はある。その分析（どんな方々が来ていて、どういった人の流れになっているか等）ができていなかった。今回、人流解析の機器の導入により、この分析を行う良いチャンスであると考えている。これにより、大まかな人の流れを商店街組合が把握し、それを各個店に還元することができれば大きな発展につながると思う。
ただし、中心商店街以外の方々に対して、導入する理由付けがきちんと説明でき、かつ納得を得ていないと商店街全体での取組にはつながらない。
人の流れを計測したところでそれが即商店街全体の活性化につながるわけではなく、やはりそのデータをどう使うかが重要。

委員（質問）

- ・16 ページ、人流の「創出」について。
自分の個店の集客・売上げを上昇させることのみを目的としてもなかなか人流の創出にはつながらない。人流の創出、商店街の活性化のために私たち各個店ができる具体的な行動は何か？

→事業者（回答）

- ・それぞれの個店単位の役割としては、良いコンテンツの作成・発信ではないか。ゆくゆくは、個店同士の連動性。商店街全体を練り歩いてもらうようなイメージ。テーマパークのような商店街を創る。

委員（質問）

- ・デジタル化により各店舗の売上などの情報を開示し合うということではないのか。

→事業者（回答）

- ・デジタル化イコール各個店の個別情報の公開とか売上げの共有とかという話ではない。

委員（意見）

- ・商店街の活性化に対して共通の認識を持つことが大事。KPI の設定等。どういう人流ができれば成功なのかを共有することが必要。仮説検証を行うこと。仮説がおかしいなら、仮説の再設定が必要となるし、最終の着地点を共有する。報告書に、PDCA のフレームワークを入れると理解しやすくなるのでは。

委員（意見）

- ・人流創出はどうあるべきか、コンテンツはどうすべきかの議論に非常に多くの時間が取られると想定される。商店街全体と、各個店ごとで分けて考える必要がある。しかし、そこに時間をかけ過ぎても、最終の着地点に行き着かない。「商店街関係者に対する説明資料」について、バランスの良い資料になっている。しかし、商店街の個店の方々が議論するには専門的過ぎる。何のデータを集めるのかを優先的に書いた方が良いのでは。そこを議論できる資料の作成を行って欲しい。高知県独自の需要に合致する供給がなんなのかという議論が必要。

アドバイザー（意見）

- ・最終版の提出まで1ヶ月。商店街を活性化するためのメニューがまずあり、それをやるためには人流計測が必要、という資料作りをしていただきたい。例えば、「人を呼ぶためにイベントを行ったが、そのイベントにそもそも人は来ていたかを調べたことがない。」では効果検証までいきつかない。効果検証を行うために、人流のデータが必要になってくるという思考になるのでは。活性化する手法から考えて、やはり人流データが必要、となるのではないか。人流データを見てみるだけでも分かることはあるはず。ただ、昨日、今日のデータだけでは意味がなく、長期に及ぶデータを見るだけでも結構な意味はある。あとは、面で見ることによって違ってくることもあるので、一箇所よりは複数箇所、場所の多さも

必要。

委員（意見）

- ・発注者である県として、仕様書に沿った形での報告書作成をお願いする。
例えば、仕様書3ページ、商店街と百貨店の連携事例、取得したデータを各個店の売上増にどうつなげられるかといったことなど、抜けがないようお願いしたい。また、機器、システムより先にベンダー名が来ている。最終レポートは、社名ははずしていただきたい。

委員（意見）

- ・昨年度の検討会の中でも、人流データを使って何をするのが曖昧。
今回もそこが曖昧なままに感じる。実例がないので仕方ないのかもしれないが、仮定でもしていただけないと、機器の選定も難しい。何がしたいのかを明確に。
他の委員が言ったように、既にやれることはやっている。

委員（質問）

- ・35ページ、①だけに工科大の名前が入っているのはどういう整理？
②～④もちろん工科大との連携はあるか？

→事業者（回答）

- ・もちろんある。

委員（意見）

- ・個店の話なのか、商店街全体の話なのか、どこかで線引きをするとは思いますが、他県事例に個店事例がなく、個店とされては「だから何？」となりかねない。個店向きの資料作成も行って欲しい。

データ取得が即活性化ということではない。最初は人流の振り返り、効果検証に使うものではないか。

データをどう使っていくか。このイメージを各関係者（個店）の方に持っていただく必要がある。

工科大との連携は、データ活用という見方では違うのかもしれないが、地域活性化としては有りだと思う。データを使って汗をかく、使い方の重要性。地元向けの資料としては、もっと個店に向けたものとして欲しい。

委員（意見）

- ・商店街の活性化、各個店がどういったことができるか。
飲食店としては、地元の食材を使って、観光客に売っていくなど。他業種間の連携

にあれば。このデータがあるからこそ商店街全体で連携ができ、商店街全体が繁栄できるための施策を考えるきっかけとなるものにしていきたい。

人流データがないと商店街振興のスタート地点に立てないということを理解して欲しい。商店街の皆さんが勘違いをしているのが、このデータで何の販売促進ができるのかではなく、各個店が販売促進（企業努力）した結果を人流データで確認するものではないか。

議員（意見）

- ・活性化とはどういうことか、どうやるのか、どう検証するのか、の定義が必要。複数あっても良い。

例えば、ひろめ市場。観光客がいっぱい座れない。商店街の東の方に人流が少ないが、まさに東の方に観光客向けの食事を提供する店があったとき、西から東に人を流す施策が実施できる。また、旅行前の観光客がどうやって情報を取っているかが分かれば、そこに情報を投げることもできる。こういう使い方もあるので、やはり定義をしっかりと定めるべき。

委員（意見）

- ・資料として、イベントやった→効果はどうだった。
こういうイベント→こういうデータが必要。
やっているイベントを明記し、それに対してどういうデータがあればいいかを明記するのもいいのでは。

アドバイザー（意見）

- ・世にない新規の対策を考える必要はない。対策には「定石」がある。その「定石」に対して必要となるデータやその活用方法を示してほしい。
コストでいえば、手法によってはコストを抑えられる。そういうことも検討を。

委員（意見）

- ・商店街の活性化施策のリストアップ。
レイヤーごとにして、受け止める方が混乱しないように。個店の話か、商店街全体の話か。
高知の施策、有名なものがあるので、定石のリストも併せて整備し、そのためには人流データがあれば良いという構成。

(2) その他

- ・事務局から、今後のスケジュール説明。

→今後のスケジュールを説明。

特に質問等なし。